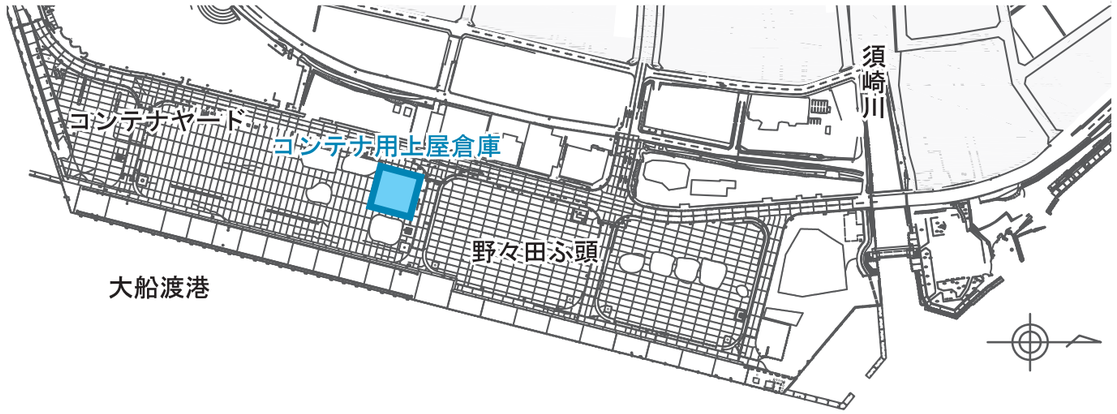
■大船渡港野々田ふ頭平面図



大船渡港国際水産・物流拠点形成プロジェクト
事業内容（日本財団による財政支援）

◆大船渡市

▷コンテナ用上屋倉庫整備

・鉄骨造平屋建
・建築面積＝2,062.29㎡
・ストックヤード＝1,094.52㎡
・屋外荷さばき場＝844.01㎡
・事務棟（事務室、倉庫、トイレ、湯沸室、電気室など）＝123.76㎡
・駐車場＝18台

◆大船渡湾冷凍水産加工業協同組合

▷冷蔵・冷凍施設整備

▷パレット、フォークリフト等関連設備の整備

◆大船渡国際港湾ターミナル協同組合

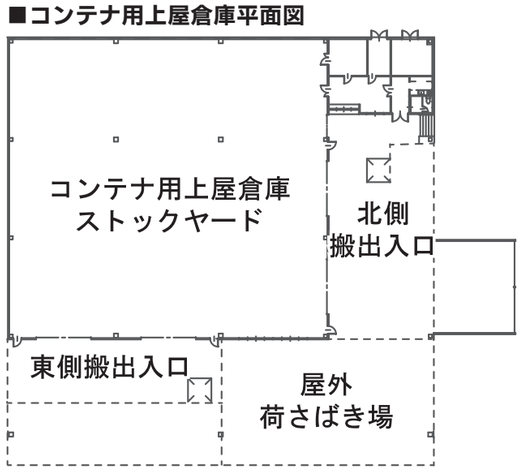
▷コンテナヤード附帯設備

・管理棟、トラックスケール、フォークリフトなど整備

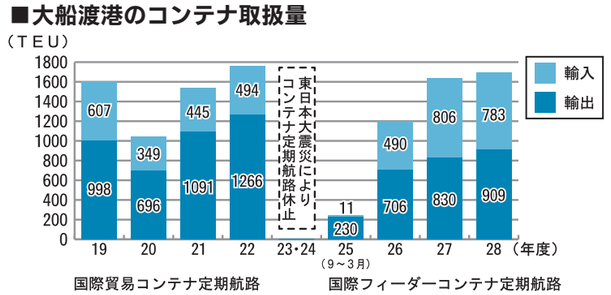
▷コンテナ運搬用トレーラー

・トラクターヘッド、シャーシなど整備

■コンテナ用上屋倉庫平面図



■大船渡港のコンテナ取扱量



■大船渡港国際フィーダーコンテナ定期航路について

平成25年9月28日に開設された大船渡港国際フィーダーコンテナ定期航路は、大船渡港物流圏域の輸送コスト低減による経済振興、それに伴う震災復興の加速などに大きく寄与しています。

現在、大船渡港には週1便寄港しており、京浜港を経由し、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど世界各国へと結ばれています。

(3) 広報大船渡 29.8.7(No.1108)

▷問い合わせ＝市役所☎0192㉗3111

大船渡港国際フィーダーコンテナ定期航路の利用拡大に向けて

大船渡港コンテナ用上屋倉庫が完成

全景

外観

内部

▷問い合わせ先＝企業立地港湾課（☎内線118）

「大船渡港国際水産・物流拠点形成プロジェクト」による施設整備

本市は、重要港湾「大船渡港」を有し、県内一の海上貨物の取り扱い、大型客船の入港など、これまで港湾を生かしたまちづくりを進めてきました。

また、基幹産業である水産業、それに伴う水産加工業の振興により、三陸沿岸地域の沿岸地域の拠点都市として発展してきました。

このような中、東日本大震災により、港湾施設をはじめ市内全域で大きな被害を受けました。

震災以降、市では復旧・復興に向け各種事業を展開してきましたが、「国際水産・物流拠点としての大船渡」の復活を共通の目的として、大船渡湾冷凍水産加工業協同組合、大船渡国際港湾ターミナル協同組合、大船渡市で構成する「大船渡港国際水産・物流拠点形成プロジェクト実行委員会」を設立し、日本財団からの多大な支援の下、冷蔵・冷凍施設やコンテナヤード施設の整備を進めてきました。

プロジェクトによる施設整備の一つであるコンテナ用上屋倉庫が、平成29年6月、大船渡港野々田ふ頭内のコンテナヤードの隣接地に完成しました。

コンテナ用上屋倉庫の完成により、これまで取り扱いのなかった小口貨物の一時保管や詰み込み・取り出し作業など大船渡港利用の幅が広がり、同時に新たな貨物の取り込みが可能となり、大船渡港の利用拡大につながるものと期待しています。